



家は人そのもの。
13人のマダムのお宅拝見！
ずっと美しい人の
インテリア



岩立マーシャ
クリエイティブディレクター

さまざまな国に
暮らし、磨かれた
上質な感性が息づく
築38年の洋風住宅

ものがあるのに美しい
知的センスが光る住まい

この家はマーシャさんが20代早々に建てた家。長年外国人に貸していたが、数年前、徹底的に掃除をして自宅として暮らし始めた。

ダイニングの延長の空間は吹き抜けになっており、半地下にもかかわらず、光がやさしく差し込む。この場所にあえてダイニングテーブルはおかず、大切にしているモンステラの特等席に。

いわたて・まーしゃ

クリエイティブディレクター。JUNなどのファッション広告の仕事を経て、レストラン「春秋」の立ち上げなど、飲食関連、および新規ブランドの総合プロデュースを国内外で手がける。また、日本だけでなく、韓国の建築、デザイン、料理を紹介する書籍の執筆も行う。

House Profile

中2階のある3階建ての築38年の鉄筋コンクリート造。63坪。傾斜地を利用して地下を一部吹き抜けにし、採光を確保した。

木べらなどもあるのにキッチンカウンターに不思議と生活臭がない。花、燭台、オブジェと同等に配置することで見え方がこんなに違ってくる実例。



「アートやオブジェが映えて丸洗いでできる白いキャンバスでカバーリングしたソファが一番とNYのアーティスト宅で学びました」。手前のローテーブルはヴィンテージのトランクが下に収まるサイズでオーダーしたもの。



清潔な3階寝室脇のバスルーム。白一色の壁面にかけて4枚の額がアクセントになっている。至るところにアートを飾って楽しむ。



「選択眼はいいものを使ってこそ日々磨かれていく」

リ
 ピングに午後の柔らかい光が差し込む。もともとここはお母さまのすすめ賃貸用に建てた住宅。長年貸していたが、数年前に、地方に移住するまでの仮住まいのつもりで引っ越してきた。ここには、マーシャさんの美意識が隅々にまで光っている。

「築38年でしょ。引っ越してきた当初は、一週間徹底的に掃除をしました」。家中をまずピカピカにしてから、今まで集めてきた家具、調度品をマーシャ流に配置した。海外も含めて今まで何軒もの家に住んできたが、基本的なテイストは変わらない。どこも上質で知的なたまたままいだ。そんな美意識はどこから来るのか？

「若い頃、NYに住み、ジャスパー・ジョーンズをはじめ多くの芸術家と知り合いました。彼らから衣食住すべてにわたって美しく暮らすというのがどういふことか教わった。今の私のライフスタイルの原点です」



ゲスト用の寝室も、低い寝具を使用してすっきり見せている。そのため、壁面にかけてのブルーのイカットが映える仕掛け。イカットに合わせて青系でまとめている。



主寝室。畳にふとんを敷いてベッドに。色がほどよく褪せた赤いアンティークのイカットが印象的。サイドの李朝牆上にはアルテミデの名品、TIZIOランプを。



寝室の隣の仕事部屋。クリップボードを中心にアクセサリ、帽子など外出時に使うものをシンメトリーに飾る。左のチェストは文房具入れにしている。

1 階はダイニング、2階は玄関とリビング、中2階はゲスト用の寝室、そして3階

は主寝室とバスルーム、仕事部屋という間取り。どの部屋もきちんと整った印象。たまたま片づいているという状態ではなくて、いつも同じすっきり感をキープしているところがすごい。

「部屋の用途というか目的をはっきりさせているからかしら。たとえば寝室はゆっくりくつろいで安眠できるように余分なものは置かない。ベッドまわりに家具やものがあると毎朝のベッドメイクがしにくいでしょう?」。そんな合理性は仕事部屋にも存分に発揮されている。写真には写っていないがデスク右手の窓側には低い棚に無印良品の書類ボックスがすべてラベルつきで15ほど並び、必要なときにさっと取り出せる態勢。「デスク上の壁面のクリップボードは気になる展覧会やレセプション案内などを貼っておくと便利よ!」

テイストは細部にまで
宿っている



額飾りのお手本のようなコーナー。黒かナチュラルな色の額装が多い。作品もモノトーン中心にアフリカのマスク、宇野亜喜良氏のエンジェルで構成。

全体のバランスを考えて
マーシャ流装飾術

(右)壁面の3点の版画やドローイングはそれぞれ異なるアーティストの作品。同じ額に入れてグルーピング。サイドボードの上は北京の骨董市で買った木彫り像など。(左)大きなモンステラの鉢を置くテーブルにはモロッコのキャンドルランタン、レアな韓国紙を燃やして編んだお籠や籠。ここに独特な感性が宿る。



(右)プレースマットは藤製。白皿、モロッコの黒い銀巻き陶器のナツ入れ、瀬戸の石皿。さまざまな国の器をミックスして楽しむセンスは絶妙。(左)「洋食器は20代のときにすべて白のウェッジウッドのコノートで揃えました」。作家ものの和食器やアンティークも数多い。



「旅で見つけてきたものや、古いもの。どれも、一期一会の出会いを大切に選んできたものだから、海外のものや日本のものをミックスしてもブレることがないんです」

「旅で見つけてきたものや、古いもの。どれも、一期一会の出会いを大切に選んできたものだから、海外のものや日本のものをミックスしてもブレることがないんです」

マーシャさんは家中のどのコーナーにもアートや家具、小物を飾っている。



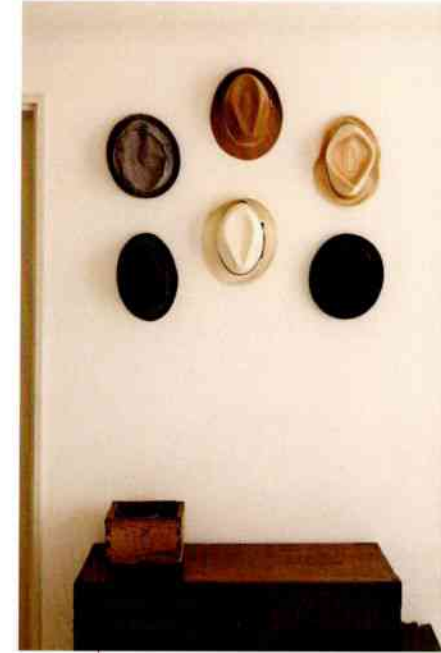
バスルームの清潔感をさらにアップさせる版画をチョイス。



数百円のグラスも数と演出法でこんなに素敵に！



ジャスパー・ジョーンズの作品にアジアの骨董を取り合わせて。



帽子もレイアウトしてかけると型崩れもなく、まるでアート。



なめらかな皮革のチェアは包み込まれるような座り心地。



傘や庭仕事用の帽子、出がけにチェックするためのミラーも。



玄関のライティングデスクはキーや郵便物を置く便利コーナー。



韓国の面班が使った筆入れとインドの銀製ボックスも調和。



小箆筋の上は新旧ミニチュアのフィギュアのコレクション。



裁縫道具などを入れた箱。不思議と実用品入れに見えない。



キッチンの壁面は三方、上下段でつくりつけの収納になっている。食器洗浄機とシンクのそばに普段使いの器を収納。棚板を種類別の高さに設置することで出しやすく工夫。カウンター上はキッチン家電。

居場所を決めて元へ戻すのが鉄則！



下段の棚には大皿や大鉢など、重い器を収納。普段は大人数ではないので、パーティなどのとき用に出番を待っている。やはり作家ものの和食器が圧倒的に多いそうだ。

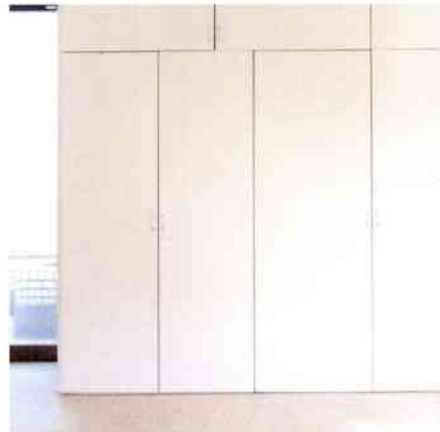
探しものはしない マーシャ流片づけ術



キッチンカウンターには、つくりつけの引き出しがあり、1段目はカトラリー、2段目は箸類など必要なものももっとも便利な位置にしまわれている。引き出しの中の仕切りも「探しに探してついにぴったりなものを見つけました」。この熱意もマーシャ流の特徴。

マーシャさんの家は部屋中どここの戸棚を開けても整然としている。どこに何があるかひと目でわかるので、探しものに無駄な時間を費やさないのですむ。「これが、家を乱雑にしないコツなの。ものには、帰るべき居場所が必要ですよ。使ったら元あったところに戻す。そういうルールをつくればものは迷子にならないし、すぐに使える。そのためには、ものをジャンルごとに分類し、わかりやすく収納すればよい。これに尽きるようだ。たとえば、キッチンの棚には工具や掃除用のツール、フックに至るまで100円ショップで買った白のバスケットに分類、収納されている。それぞれ何が入っているか一目瞭然のラベルも整然と貼られている。

「収納用品は収納場所のサイズを測ってきっちり収まるように入れています。さらに、必ず使う場所の近くにしまってください。使いたいときにすぐ出てくるようにね」



寝室に隣接した仕事部屋にある壁一面のつくりつけクローゼット。季節ごとの服を収納し、開けたらひと目でわかるようにしている。このほかにコートの収納場所もある。



ワークスペースのドロワーには、カットソーやニットなどたたんでしまえる衣類を主に収納している。ボーダー好きで一年中柄ものはほぼこれだけというさぎよさ。



玄関の靴用クローゼットは間口に比べて奥行きが深く使いにくかった。靴箱をオーダーし、靴のインスタント写真を貼り中身をわかりやすくした。問題は解決するまで徹底追究する。



キッチンの出入り口近くにある棚。掃除用や大工道具を収納。収納棚のサイズを測り、ぴったり収まるバスケットを購入し、ラベルを貼ってわかりやすく。「開けてもきれい」がマーシャさん流片づけの基本。



2階のリビングの低い棚の引き出しは、CDやDVDが収納されている。DVDが縦に2枚収まる奥行きがあるのでたくさん収納できる。これは大好きな無印良品のユニット家具。



小さな引き出しがたくさんあるチェストは、拾ってきたものを黒くペイントした。細かい文房具類が収納できて便利。家具はブランドより実用性を優先。